## 【ごんぎつね授業記録⑥】

T「だれがいったい……」とぶつぶつ言っています。
　そんな兵十の姿を見たときに、ごんは、どんな気持ち、どんな気分になったでしょうね。
C……
Tはずんででかけた。それなのに、
こういう兵十をどんな思いで見ていたでしょう。
宏　これはしまったとおもつて。
　せっかくいいことしたと思ったのに、反対にわるいことしてしまった。
T和寿おまえは、
和寿　……うんとな、いやなことになった。
T良いことしたと思ったら反対のことになっちゃったんやね。そのとき、どんな気持ちになったかな。
北斗　せっかくいいことをしたと思ったのに、なんか、しかえしのようになってしまった。
Tわかる。
浩二　いいことをしたのにな、ごんはいいことしたとおもったのに、兵十は盗人と思われていやな気分。
T良いことしたと思ったのに、逆にぬすっとあつかいされることになってしまった。
康治　いいことしてわかってもらおうとおもつたやけどな、盗人と思われたから悪いことに
T良いことをして兵十を元気づけようと思ったのに、あべこべに盗人にしちやった。それがしまった、という気になるんやな。
祐介　なんでそんなことしてしまったんだと思ってな、もうちょっと考えてしたら良かったと思ってな。
Tほう、今のわかる　寿子ちゃん
多喜寿子　もうちょっと考えたらよかった。
宏　うなぎのことで思ってもないことになって、またここでも思ってもないことになって二度目やから、悲しい。
Tしまったのなかには、二回目やって。勇太わかる？
和寿　前はおっかあが死にそうなときにうなぎを盗んで殺したと思ってな、悪いことになってな、ほして、いわしを盗んだらまた兵十にいやなこと
Tなるほど、わかってきた？
　うなぎも軽いいたずらやったな。うなぎもいたずらのつもりがひどいことになっちゃった。

しまったの中には、二つのなかみがあるみたいだね。
義昌　二度もくりかえしてしもた。
康治　「これは、しまった。」やでな、一度目やったら「しまった。」やけどな、二度目やでな、
和寿　またまたやってしまった。

T「これは」というのは、よけい、強い。
Tここの中身はそれでいい。そのときに、こんなこと言っていますね。
「かわいそうに……あんなきずまで」て書いてますね。
義昌　かわいそうにおもっとる。
Tかわいそうに兵十は、いわしやにぶんなぐられて、あんなきずまでつけられたのか。
ここに、なんか、ごんの気持ち感じられる?。
　勇太、「あんな傷」っていったら、どんなきずが浮かぶ。
勇太……
T兵十、おおけがしよったん?
　かすりきずでしょ。
　かすり傷やのに、「あんな傷まで」て。
Cはいはい
俊介　兵十が何もしていないのに、ごんがやったのに、兵十がきずをつけられてしまってしまった。
和寿　ごんはな、自分のあやまちをな、兵十に……どういうたらええやろ。なすりつけた
T　あんな傷まで、て書いてる。
智美　ただでさえ、おっかあが死んで心の傷を深くしているのに、さらに顔に傷をつけてしまった。
T智美ちゃんが今言ったのは?…ただでさえ、兵十の心が死んで傷ついている。そこへもってきて、いわしやに傷をつけられた。
義昌　兵十は何もやってへんのやでな、やるんやったらおれをやれ。
T今の聞いてどう?
宏　あんなきずまで。かすりきずは、かすりきずでも、ぶんなぐられてるから、かわいそう。それから前のところにな、おれと同じ一人ぼっちの兵十かていうところでな、な、ほういうふうに思ってる。
T何か、おわりの方におもしろいこといってる。もういっぺん言って。
　おれと同じ?
　かすりきずや